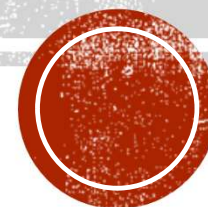


令和6年度 活動報告

「檜原たねとつち」



団体概要

- 2020年 檜原村東地区にて放課後の習い事として、「書道教室」を引き継ぐ
地域の書道教室として「書工房たね」 開始
- 2023年 0歳児から小中学生の子育て世代対象 「檜原ママサロン」 開始
- 2024年 大人の学び場「遊由ひろば」発足
居場所づくりに関する情報交換会 子どもの権利に関する条例制定を目指す
- 2024年4月 「檜原たねとつち」名称を変更



◆ 捉えている「問題」「地域課題」

- 豊かな自然環境があるにもかかわらず、それを活用した**自然遊びの経験が不足**している
- 少子化・過疎化の進行により、地域での**あそびの伝承が途絶えつつある**
- 感染症流行の影響で、**こどもが自由に遊ぶ環境や機会が減少**している
- 過疎化等によりこどもが**主体的に遊ぶ姿が見られにくくなっている**
- 過度な感染症対策の影響で、**親が子育ての責任を一手に担い、精神的負担を感じている**
- 地域の自治会の**加入率が低く、行事などが縮小傾向**にある
- 地域住民同士の**交流の機会が減少し、コミュニティの結束力が低下**している



檜原たねとつちの目指していること (社会教育活動)

- ・ 檜原の自然環境や地域を活かした学びと遊びの場をつくること
- ・ 一人ひとりが主体的に地域の中で自己発揮すること
- ・ 子ども、親たち、地域の成長を支えること



【平成27年12月の中央教育審議会の答申
「新しい時代の教育や地方創生の実現に向けた学校と地域の連携・協働の在り方 と今後の推進方策について」 まとめを引用】

「誰かが何とかしてくれる、のではなく、自分たちが『**当事者**』として、
自分たちの力で学校や地域を創り上げていく。

子供たちのために**学校を良くしたい、元気な地域を創りたい、**
そんな『**志**』があつまる学校、地域が創られ、そこから、子供たちが自己実現や地域貢献など、
志を果たしていける未来こそ、**これからの未来の姿**である。」（注）



檜原あそぼう会

地域で遊ぼう！自然の中で遊ぼう！



参加費
無料

なにであそぶ？

2024 09.01日

10:00～スタート

当日参加大歓迎です！

場所 小沢地区 やまっこかわっこ

持ち物 水筒、川遊びに必要なもの
焚き火で焼いて食べたいもの

カレー作り・見守りスタッフ大募集！！

主催・申込・連絡先 檜原たねとつち（小柴）

電話 080-6511-0618

お車で越しの方は、必ず主催者は連絡してください！



子ども食堂 同時開催！
みんなでカレーを食べよう🍛



1年後に願う村の姿

- ・子どもたちが檜原村の豊かな自然や地域の人に、魅力を感じ、地域で遊ぶことが選択肢に入ること、遊びや交流の幅が広がること。
- ・子どもたちの居場所づくり事業の存在が子どもだけでなく、家庭や学校、地域、その他の関係機関に認知されること。

5年後の願う姿

- ・放課後に子どもたちが遊ぶ場所、
過ごす場所の選択肢が増える
⇒「移動の自由、居場所など社会資源の増加」
- ・地域・学校からの声を受け止め、
地域学校協働本部を核とした地域づくりが行われる
⇒「地域学校協働活動推進員配置」
- ・社会教育や家庭教育の必要性が学校教育と同じくらい認知され、子どもから大人まですべての人が主体的に地域づくりの担い手として、地域で自己発揮、自己実現する。



令和6年度事業概要

「こどものあそびを 地域の中に！自然の中に！」

～こどもの居場所づくりを通した
豊かな地域コミュニティづくりをめざして～





■ 目的・目標：

子どもの心と身体の安心安全が守られ、自然の中で主体的に居られる場を創造する。また、子どもと子どもの育ちに携わる大人たちが、「子どもの遊び場」や「居場所づくり」について一緒に考えることで、地域全体で子どもの居場所への理解を深め、共に育ちあう地域社会、コミュニティの育成を目指す。



◆ 助成事業の実際と成果

実施内容

- 「檜原村あそぼう会」の開催
 - └ 自然の中で自由に遊ぶ活動を定期的に提供
- 勉強会、こどもマーケット、だれでも食堂などを企画・実施
- 地域の大人・高齢者・こどもが交わる機会を創出



成果

- こどもたちの「やりたいこと」を尊重する場が実現
- 主体的に行動するこどもの姿が見られた
- 世代間交流が進み、地域全体の関係性が強化された
- 大人たちがこどもとの関わり方を学ぶ機会となった
- こどもの権利や環境について、地域住民同士が話し合う文化が芽生えた



◆ 今後の取り組みとこれからの展望・課題

今後の取り組み

- 定期的な活動の継続（あそぼう会や地域イベント）
- 地域住民と共に、子どもに必要な環境を話し合う機会の拡充
- こどもの権利に関する条例理解・制定に向けた学びと実践の場づくり
- 行政や関係団体との連携体制の強化

新たな課題

- 活動の継続に必要な「人材・資源」の確保
- 多様な世代や立場の人が継続的に関わるための仕組みづくり
- 地域全体で支援体制を築くための合意形成と働きかけ



令和6年度事業会計報告

| | 予算 | 決算 | 収入 | 金額 |
|----------------|----------|----------|------|----------|
| 人件費(会場運営、講師謝礼) | 42,000円 | 410,000円 | 参加費 | 20,000円 |
| 交通費 | 30,000円 | 0円 | 食堂収入 | 11,300円 |
| 物品費 | 140,000円 | 39,000円 | カンパ | 20,000円 |
| 消耗品 | 111,700円 | 42,615円 | 自己資金 | 182,961円 |
| 広告宣伝費 | 11,000円 | 0円 | | |
| 会場費 | 36,000円 | 23,000円 | 助成金 | 308,000円 |
| 委託費 | 60,000円 | 0円 | | |
| 対象外経費 | 0円 | 27,646円 | | |
| 合計 | 814,000円 | 542,261円 | | |

